

令和5年度第2回在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会会議報告書

1. 開催日時 令和5年10月5日（木） 午後2時から3時30分まで
2. 開催場所 市役所本庁舎3階 東庁舎303、304
3. 出席者 森谷委員、筒井委員、近藤委員、野田委員、土橋委員、福岡委員、日野口委員、廣瀬委員、平澤委員、岩崎委員、篠澤委員  
事務局 高齢者福祉課 竹内課長、加藤、栗原、今井  
健康課 松岡課長  
白井駅前地域包括支援センター 櫻田、西白井駅前地域包括支援センター 大澤  
白井中央地域包括支援センター村上
4. 傍聴者 2名
5. 次第  
令和5年度第2回白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会会議  
内容  
(1)在宅医療・介護連携推進事業、認知症施策上半期実績報告  
(2) 認知症初期集中支援チーム上半期活動実績報告  
(3) 白井市認知症ガイドブックの改訂について  
(4)意見交換  
「令和6年度（仮）認知症みまもり模擬訓練実施に向けて」
6. 内容 以下の概要のとおり

会長	○ あいさつ それでは、議題に移る。
事務局 委員	○内容1 第1回白井市在宅医療・介護連携、認知症施策上半期実績報告についてとする。事務局より説明を求める。 事務局より、①感染症の取り組みを説明 施設の中で感染するというのは、今ではどこから入ってきたかわからない状態だ と思う。感染対策は徹底していると思うが、入居者がお互いに接触する状況は防 げないので、もう頭打ちではないか。いかに早く見つけて対応することが大事。 10月から治療薬の処方について患者負担が増えるので、治療を導入していくか どうか家族などと早めに話し合ったほうがよい。気を緩めないで感染対策をやる ことが重要。
会長	②課題別ワーキングの取り組みと③救急医療情報キット活用状況について事務局より説明を求める。
事務局 会長	事務局より説明 救急医療情報キットについて伺いたい。訪問診療で関わっている患者さんについ ては、内容を確認して、古くなっているようであれば、更新するようにしている。 救急医療情報シートの更新については、他の人へはどのようにしているか。

事務局	介護保険を利用して、ケアマネがいる場合は、再度ケアマネを通して周知していきたいと思います。今後、ケアマネを集めてのワーキングを行う予定なので、そこで周知をしていく予定です。市民には年に1回は広報等で周知する機会を図っていきたいと考えております。
委員	以前は、救急医療情報キットが置いてある家のドアにシールが貼っていない家が多かったが、今はほとんどの家に貼ってあり対応がスムーズになっている。シートを更新されていない方だと思うが、シートが古いとにじみがでてしまうのか、内容が読み取れないということが起きている。今後ともシートの内容の更新は推進していただきたい。
会長	○内容2「認知症初期集中支援チーム上半期活動実績報告」について説明を求める。
事務局	資料1 認知症初期周知支援チーム実績報告（令和5年度上半期）を説明。
会長	認知症の方の対応について、金融機関からの連絡があり連携ができたとのこととてもよかったと思う。市として初期集中支援チームについて商店や民間企業などにはどのように周知しているか。
事務局	商店や民間企業などには、認知症初期集中支援チームとしては周知していない。市のSOSネットワークに加入している団体や近隣の金融機関などに、認知症を理解してもらうため「認知症サポーター養成講座をしませんか」という周知のチラシを送付し周知啓発している。
会長	支援期間が90日以上になってしまうケースが多いが、原因はあるか。
事務局	本人が納得せず、なかなか病院受診につながらないケースや独居の場合は、親族などが仕事をしている場合が多く、話し合いをするのにも日程調整などに時間がかかってしまうケースもある。
委員	軽度の認知症の時から、ケアが入ったほうがよいという人もいるが、本人はそんなに感じていないこともあり、地域包括につなぐタイミングを悩むことがある。今後は、軽い認知症の症状がある人でも必要に応じて地域包括につないでいきたいと思う。
委員	現在、認知症初期集中支援チームが関わった人で、チームからケアマネに引継ぎをして、その後訪問看護が入っているケースを支援している。チーム介入後の評価が難しいが、チームを終了した人の3か月後、6か月後くらいまでの評価をしてほしいと思うが、そのあたりはどう考えているか。
事務局	チームの介入後、モニタリングとして、1か月後を目途に状況を確認し訪問しているが、その後は特にしていない。必要時、ケース支援で困難な場合は、ケアマネを通して地域包括と連携し情報共有していき、市として介入していくことも可能なので相談してほしい。
西白井駅 地域包括	チームの介入があった方を支援しているケアマネに対しては特別なフォローをしていないが、何かの機会であった時に様子などを確認している。今後も意識しながら支援していきたい。

白井駅前 地域包括	認知症初期集中支援チームの支援が入り、包括も一緒に関わっていたケースで、ケアマネにつないだあと、何かの機会で会った時に、その後の様子はどうか確認している。あまり確認をすると、反対に負担になってしまうのではという思いがありできていないこともあった。今後も気にかけて様子を確認していきたい。
会長 事務局	○内容3 白井市認知症ガイドブックの改訂について説明を求める。 事務局より説明 (質疑なし)
会長 事務局 委員	○内容4 意見交換「令和6年度(仮)認知症みまもり模擬訓練実施に向けて」事務局より説明を求める。 事務局より説明(その後、委員一人ずつにコメントをもらう) 非常に良い取組みだと思う。すでに実施している市などを参考にしながら、進めてみればよいのではないかと。病院の立場では、模擬訓練として関わることはできないが、病院で診察をしていると、認知症は見た目では判断できないことが多く、薬の管理ができないというところから認知症を疑うこともある。また、子どもが気づくということもよくあるようで、学校も巻き込みながら訓練をしたらどうか。
委員	薬剤師としては、認知症の症状が出てきた方で、薬の管理ができず、何回か薬局に来たりすることで気が付くことがある。飲み方の工夫で薬を一包化するとか、医師に状況を伝えることはできる。訓練については、すでに行っているところを参考にしながらやればうまくいくのではないかと。
委員	訓練だけで実施するよりも講座を組み合わせ、イベントのように楽しみながら学べるようにした方がよいのではないかと。また、年代別や世代別で学べる内容があるとよいと思う。リハビリ職として、「コグニサイズ」というエクササイズがあり、もし講義などを考えるならば、講義の中にコグニサイズを入れてもよいかと思う。
委員	自分の子供が学校で認知症サポーター養成講座を受けてきた。訓練はぜひ、子どもたちを参加させて学んでいけたらと思う。訓練を行う時は、具体的なシナリオを作ったほうがよいと思う。
委員	消防は、要請があつていく部署なので、警察や市役所などの要請を受けて動くことが多い。消防の職員の中にも声の掛け方が分からない人もいるので、講座としてやってみて、その後模擬訓練に参加するようにしたらどうか。また、地域に密着し活動している消防団との連携をするのもよいか。
委員	訓練実施に向けては、すでに実施している市などを参考に考えていったらどうか。訓練の時は、警察としては通報、連絡を受けるような係なのかなと思う。訓練の参加者として、地域住民、民間企業を巻き込むことは大事かと思う。
委員	民生委員の取り組みとして、今年度、認知症支援部会ができた。民生委員の中でも認知症のことを知らない民生委員もいる状況がわかった。民生委員も一緒に訓練に参加できればと思う。認知症サポーター養成講座を受講しただけでは、なか

	<p>なか声をかけられないと思う。訓練をして具体的に学び、声かけをすることで自信につながっていくと思う。</p>
委員	<p>認知症の方をイメージしていても、いざ認知症の人に会った場合、どのように対応したらよいかと戸惑うこともあるため、訓練は必要だと思う。先行的にやっている他市の状況を確認し考えていく必要がある。</p>
委員	<p>防災無線で認知症の方を探しているアナウンスを聞いたときに、もし見つけたらどうしたらよいかと思うことがある。子どもは意識が高いので、PTAの方の参加も呼びかけたらと思う。働き世代の50歳代くらいの方は、地域包括支援センター自体を知らない人もいますので、知ってもらえるようなきっかけも作れたらと思う。地域のスポーツサークルに入っている人などにも参加してもらおうと色々な年齢層がいるのでよいかと思う。</p>
委員	<p>歯科医としては、認知症の方の家に訪問した時に、口の中に傷があるとどこかで転倒した傷ではないかとか、入れ歯が合わなくなっているときちゃんと栄養管理ができていないのかなど、口の中を通して見て見守りをしている。</p> <p>訓練については、声のかけ方だけではなく、いつも同じ場所にいるとか、周りを観察する視点もが大事だと思う。</p>
会長	<p>認知症の方は、家族とのトラブルを起こすことがある。本人としては隠したいと思う傾向がある。突然、怒り出すことや色々な場所で症状が変わるなどのシチュエーションも伝えることが大事である。</p>
会長	<p>他に意見はあるか。  (意見なし)  以上で、本日の会議を終了する。</p>

